

令和6年度(2024年度)農林水産常任委員会管外視察の概要

- 1 視察日 令和7年(2025年)1月22日(水)～23日(木)
- 2 視察者 農林水産常任委員会(8名)
吉田孝平(委員長)、前田敬介(副委員長)、前川 収、岩中伸司、
増永慎一郎、緒方勇二、亀田英雄、斎藤陽子

3 視察の概要

(1) 大阪市中央卸売市場本場

大阪市中央卸売市場本場は、青果物取扱の規模が東京都中央卸売市場大田市場に次ぐ全国2位であり、本県JAグループの青果物出荷量の3割を占める重要な拠点市場である。

市場面積が狭く、2～3時間を超える荷待渋滞が散見されていたが、「産地トラックレーン」や「駐停車禁止レーン」を設置するなど2024年物流問題対策に取り組んでいる。

今回の視察では、本県農産物の関西圏における流通状況や2024年物流問題に係る同市場の対応、今後の取組等について調査した。

同市場からは渋滞を解消するために産地トラック専用レーンを設置したこと、今後はパレット利用率を高める必要があるなどの説明があった。また、市場内の各施設の視察も行った。



(2) 阪神百貨店梅田本店

阪神百貨店梅田本店は、大阪市の中心地である梅田地区に位置し、JR大阪駅に近い大規模商業施設である。地元客だけでなく観光客の利用も多い。

同百貨店では、熊本県産品も取り扱われており、令和6年11月には熊本県産品を梅田地区の商業施設で提供する「くまもとモン×大阪梅田ジャック」の一環として、熊本県産食材や県産酒を期間限定で販売するなど、熊本県農産物等のPRに貢献している。



今回の視察では、熊本県農産物の取扱いの現状や今後の課題について調査し、ＪＡ熊本経済連、果実連の大阪事務所も交え意見交換を行った。

同店からは、関西の消費者に受け入れられるためには視覚的に興味を引くイベントの実施も一つの手法になるなどの説明があった。

(3) 兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター

兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センターは、瀬戸内海に面し、明石海峡をはさみ淡路島を眼前に臨むことができる明石市にある。

水産資源の持続的利用と安全・安心な水産物の安定供給を図るため、科学的調査研究と技術開発を実施し、その成果を行政機関、関係団体との一体的な活動を通じて漁業者・県民に普及するほか、行政施策の実施に役立てている。２０２２年（令和４年）及び２０２３年（令和５年）に兵庫県のノリの生産量が、枚数、生産額ともに日本一となった。

今回の視察では、同県が取り組んでいるノリの色落ち対策などについて調査した。

同センターから、ノリの生産で兵庫県がここ２年連続全国１位となっているが、生産量は全国同様以前より減少している。要因としては水温の上昇、栄養塩の減少による漁期の短縮、クロダイなどによる食害がある。それらの解決のためタイムラプスカメラを使った調査の実施など、様々な調査や対策に取り組んでいるとの説明があった。

